

県立学校への支援の充実について

兵庫県資料

資料5

I 現状と課題

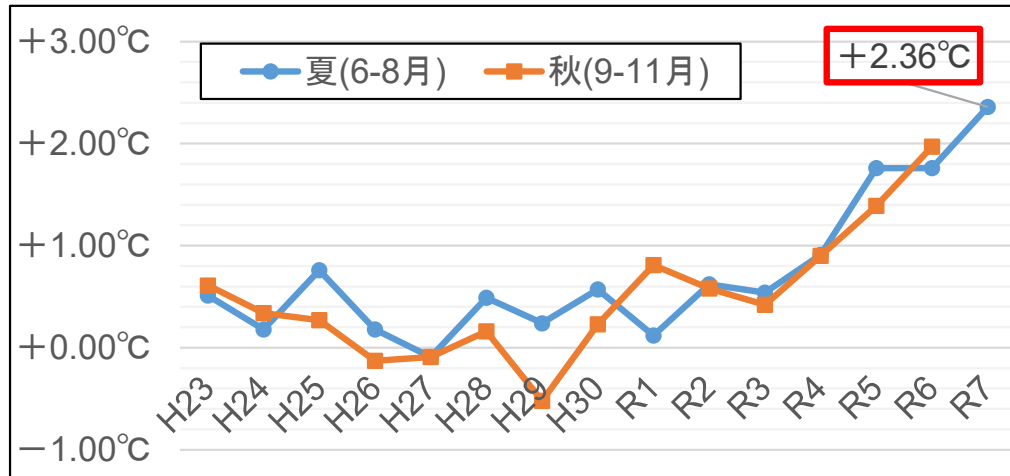
1. 空調光熱費

現
状

近年の深刻な気温上昇により、夏期の空調稼働日数・時間数が年々増加していることに加え、料金単価の高騰も重なり、空調光熱費の負担が増加

【参考】日本の季節平均気温偏差

※1991(H3)～2020年(R2)の30年平均値を基準値とする偏差



【参考】学校環境衛生基準（温度28℃）以上の気温発生日数

※各年6月～10月最高気温

対R3増加率

最高気温	R3	R4	R5	R6	R4	R5	R6
28℃以上	87日	97日	98日	106日	111%	113%	122%
30℃以上	49日	72日	83日	84日	147%	169%	171%
32℃以上	28日	43日	52日	68日	154%	186%	243%
34℃以上	9日	13日	21日	38日	144%	233%	422%

【参考】電気料金（産業用）の平均単価推移

年度	R3	R4	R5
単価(円/kWh)	19.28	27.55	24.89

※資源エネルギー庁公表値（R6は未発表）

課
題

気温上昇に伴う教育環境の維持については国レベルで対応すべきものであるが、公立小中学校と比べると、県立学校の空調光熱費の需要増に対する地方財政措置が十分でない

【参考：公立小中学校等の空調関係の需要増に対する主な国の対応】

R1 交付税大綱	冷房設備の光熱水費その他の公立小中学校の運営等に要する経費の財源を充実（大臣答弁：69億円）
R7 地方財政計画	公立小中学校体育館（特支含む）の空調設備の光熱費29億円を計上

I 現状と課題

2. 学校施設の環境整備

現状

- ◆ 昭和40～50年代の生徒急増期への対応、養護学校設置の義務制実施等により、学校施設を多数建築。現在、**築後40年を経過した学校施設が約8割を占め、施設・設備の両面で老朽化が進行**
- ◆ 近年の猛暑の深刻化に伴い、夏期の学校生活にとって**空調設備は必要不可欠**
- ◆ 教育環境の変化に伴いデジタル端末等を保管する個人ロッカー等、**新たな教育用備品の整備が増加**
- ◆ 職業学科において先端機器に対応した実践的な学びの充実を図る必要があり、**設備整備が不可欠**

課題

- ◆ いわゆる「高校無償化」により公立高校離れや小規模高校の再編統合が加速することで、地方の高校教育の衰退を招くおそれがあるため、高校の魅力づくりは喫緊の課題
- ◆ **高校の施設改修事業は国庫補助金・交付金の対象外（小・中学校は対象）**。一定の起債は充当対象になるが、**現行の起債への交付税措置は限定的**
- ◆ 高校の魅力づくりや、ものづくりの将来を担う人材育成のためには、**教育用備品・産業教育設備の更新・充実が不可欠**だが、**物価高騰も重なり多額の予算が必要**

【参考1：県立高校の施設改修等にかかる地方負担状況】

区 分	国 庫	起 債	主な対象事業	充当率	交付税措置率
県立高校	対象外	学校教育施設整備事業債	緊急修繕・環境改善	75%	なし
		公共施設等適正管理推進事業債	長寿命化改修	90%	30～50%
		緊急防災減災事業債	指定避難所体育館の空調整備	100%	70%

【参考2：産業教育設備整備に対する国庫補助の状況】

学校施設環境改善交付金（産業教育施設の整備）において令和2年度補正～令和4年度まで対象経費に「産業教育装置」が追加されたが、令和5年度から削除。

II 国への提案

1. 県立学校の空調光熱費の需要増に対する財政措置を拡充すること
2. 県立高校の環境整備を推進するため、国庫補助の対象化や交付税措置の手厚い起債の創設など、施設の改修・改築や設備更新、備品整備に対する財政措置を講じること



溶接や旋盤技術などを学ぶ県立尼崎工業高校を訪問（R7.4.22）



県立社高校のグラウンドの芝生化



生徒用個人ロッカー・体育館等の無線LAN環境整備